

海洋開発サマースクールに参加して

修士1年生 前川 真奈海

平成30年8月12日から9月8日までの4週間、日本財団オーシャンイノベーションコンソーシアムの支援のもと、海洋開発サマースクールに参加させていただきました。この海洋開発サマースクールは、将来海洋開発分野で活躍を希望している学部3,4年生および修士1年生を対象に、将来必要とする海洋開発に関わる知識や国際性をより実践的なレベルで経験することを目的に、海外の大学に学生を派遣するプログラムです。私は、オランダの都市デルフトで、全国から集まった12人の学生とともに海洋開発事業について学びました。



風車をバックに記念写真



デルフトの街並み

私がサマースクールに応募したきっかけは、3月に参加させて頂いたコンソーシアム主催のROVセミナーや大学院での授業を通して、海洋開発について興味を持つようになり、より実践的な内容を学びたいと思ったことです。また、このサマースクールで、世界の進んだ技術や海洋開発に必要な視点を学び、国際性を身に着けたいと考え応募しました。

サマースクールでは、洋上風力発電をメインとして、海洋石油・ガス開発の一連の流れや、波力発電や潮力発電などの海洋エネルギーについても学びました。大学での講義や、5社の企業訪問をさせて頂いたことで、海洋開発分野における多様な知識と実情について学ぶことができました。オランダでのプログラムは、初週の講義で「海洋開発はとても大きなプロジェクトなので一人ではなし得ない」と教えて頂いた通り、課題や発表はほぼすべてグループワークでした。グループワークでは、海洋石油・ガス開発計画および洋上風力ファーム開発計画について発表し、それぞれどのような視点が必要かということを実践的に学ぶことができました。全体として実際に自分たちで手を動かす実践形式の授業が多く、力が身についたと感じます。これらのプログラムを通して、海洋開発はとてもスケールの大きなビジネ

スであり、金銭的・環境的に大きなリスクを伴うものであるということを実感しました。

サマースクール中は参加した学生たちとホステルで共同生活をしました。女子は4人全員同室だったこともあり、すぐに打ち解けることができました。参加学生たちとは、夜遅くまで発表の準備に取り組んだり、休日には一緒に出かけたりと、様々な経験を共有することで特別な絆ができたと感じています。また、日々の生活の中で、オランダの文化や様々なシステムなど、日本との違いを発見することが楽しかったです。



洋上風力発電ファーム開発のロールプレイ



プロジェクト発表

サマースクールに参加するに際して、個人的な目標として英語能力を向上させるというものがありました。今まで受験勉強以外で英語に触れる機会がほとんどなく、一ヶ月の海外生活と英語での講義にとっても不安を感じていました。サマースクール1週目は講義内容を聞き取ることすら難しく、聞き取れる単語と授業資料からなんとか意味を推測していましたが、最終週になってある程度聞き取れるようになったと感じました。しかし、やはり英語で質問したり発表したりすることは難しく、このサマースクールの間だけでは十分な成長は感じられませんでした。今後も英語力の向上に励もうと決心するきっかけになりました。

このサマースクールを通して、海洋開発に大きな魅力を感じ、将来は海洋開発に携わりたいと思うようになりました。特に洋上風力発電について、資源の少ない日本において海からエネルギーを得るということは有効であると感じています。一方で、日本周辺の海は大深水であり地震や台風の影響を考えなければいけないなど、地形的に不利な部分があるため、それらを克服するための技術開発が必要不可欠だと考えられます。将来はそのような分野で貢献できる技術者になりたいです。そのため、まずは様々な知識を得て、広い視野を身につけるため、大学院での研究にひたむきに取り組むたいと考えています。

最後になりましたが、サマースクールに参加するにあたりご支援くださった先生方、また過去にサマースクールに参加し私たちにバトンをつなげてくださった先輩方、本当にありがとうございました。



湖上風力発電ファームの見学（Westermeer Windfarm）



海洋石油・ガス生産設備の下部構造物をバックに記念撮影（Heerema）